



1000000の壁

大田区立志茂田中学校 三年 渡邊 陽香

高校生になったらアルバイトに就きたい。これが私の今のところの願いだ。別にお金に特段困っている、という訳ではないが「労働して対価を得る」という行為はなんだかとても魅力的に思える。そんな話を母親にしていたところ、「アルバイトをするのはいいけど、収入が1000000円を超えると所得税を払わなくてはいけなくなるよ。」と言われた。調べてみると、1000000円までは課税所得がゼロになるが、1000000円を超えると所得税をとりた、1006000円を超えると社会保険の加入対象となり、1000000円を超えると自分で健康保険や厚生年金などの社会保険料を負担しなくてはいけなくなる……というように様々な「壁」があることを知った。場合によっては1000000円以上稼いで税金を納めるよりも、1000000円以下に収入を収めたほうが手元に残る金額が少ないということもあらしい。税金とは働く人を苦しめるものなのだろうか、とそんな考えがよぎった。様々な税があるが所得税はあまたの税の中でもひととき目立つもの

の一つである。なぜなら、日本の税收の半分を占めているからだ。私は、所得税は本当に悪なのか、という思いを胸に使いみちについて調べてみた。すると、一番多く使われているのはどうやら社会保障費というものであった。ん？社会保障費？社会保障費とは相互扶助の精神に基づいて、老

齢、疾病、失業などの原因による生活上の困難から社会の構成員が互いに守りあうシステム……らしい。私の所得税は悪である、という認識は間違っていたんだと気付かされた。国に納めた所得税は結局のところ回りに回って自分に返ってくるのだ。もし私が将来病気などの理由で働けなくなった時、助けてくれるのは私が高校生の時に払った所得税であるかもしれない……!!と思うと胸が熱くなった。又税金が使われているのはどうも社会保障費だけではないらしい。児童福祉のために、まちづくりや環境整備のために、公共施設の維持管理のために、と挙げだしたらきりがないほどだ。こうして作文をせっせと書いている間にも、誰かがみんなのために税金を使って道路の整備をし、上水道の整備をしているのだろう。そう考えると、私の「アルバイトは税金などの面倒臭いものが絡むから憂鬱だな」という気持ちがふっとび、はやく私もみんなのために働いて支えたい!!という気持ちがあふれてきた。

今、私は中学三年生だ。まだ義務教育の期間であり支えてもらう立場になる。高校生になると、支えられる立場でありながら同時に支える立場にもなりうるのだ。そう考えると税を払う価値というものは充分あると思う。